

宗務所婦人会報

第33号



曹洞宗宮城県宗務所婦人会



お地藏さまもマスク

目次

「あいさつ」 宗務所婦人会長	森 すみえ… 2	「コロナの半年」	伊東美智子… 9
「挨拶」 宗務所長	三田村道雄… 3	義母との別れ	瀬戸 洋子… 9
「明日に向かって今を」 東北管区教化センター統監	高橋 哲秋… 4	新年研修会に初めて参加して	島貴 和恵…10
令和二年度総会に関して	山本 道子… 5	婦人会例会	
「任期を終えて」 前会長	金澤 洋子… 5	「涅槃会と針供養」	後藤 陽子…10
「でも、頑張ってマスク作り」	花釜 祥子… 6	報告、「ボランティア活動」	……………11
「コロナ禍でも笑顔で、	太田 祐子… 7	「写経の御礼と記念品発送について」	……………11
自粛生活と婦人会活動		評議員報告	……………12
「そこから学んだこと」 斎藤 京子… 8		役員改選	……………12
		編集後記	……………12

あいさつ

曹洞宗宮城県宗務所婦人会 会長 森 すみえ



四月二十二日・二十三日
秋保温泉にて開催予定の「令和
二年度曹洞宗宮城県宗務所
婦人会総会・研修会」は、新
型コロナウイルス感染症予防
のため中止になり、九月四日、
曹洞宗宮城県宗務所にて、役
員会が代わりに開催されまし
た。

役員改選で金澤洋子前会長
の後任として会長を引き受け
ることになりました、亘理町
當行寺ハチドリ婦人会の森
すみえでございます。

あまりにも大きい役に心許
ない私ですが、宗務所長並び
職員の皆さま、東北管区セン

ター統監さま皆さま、ご寺族
さま始め役員の皆さまのご指
導をいただき務めてまいりた
いと思えますので、どうぞよ
ろしくご協力くださいますよ
うお願い申し上げます。

今年、新型コロナウイルス
感染症予防のため、総会の
ほか様々な行事や事業が中止・
延期されました。「曹洞宗婦
人会本部総会」花巻温泉での
「東北管区研修会」大本山永
平寺での「曹洞宗婦人会創立
四十五周年記念大会」は実行
委員のみで開催され、法要・
納経・記念品を贈呈されたよ
うです。特に、四十五周年記
念事業には、当宗務所婦人会
も四百巻の写経を会員の皆さ
まに協力していただきました。
新年明け早々に唯一開催で
きました「曹洞宗宮城県宗務

所婦人会新年研修会」は「ホ
テルモントレ仙台」にて、一
月三十一日に七〇余名の皆さ
まに参加いただきました。

宗務所所長の三田村道雄様
のご挨拶、東北管区教化セン
ター統監の高橋哲秋様にご祝
辞をいただき、東北教化セン
ター布教師の村上明秀様に講
演をいただきました。講師の
村上様は丸森町にあるお寺で、
被災なされたお話しもお聞き
しました。昨年十月の台風に
よる丸森町、大郷町等の集中
豪雨被害を受けた方々には、
心よりお見舞い申し上げます。
これからの日本では、どの
地域にでも起こりうる大災害
に備えて、私たちも日頃より
心掛けしなければならな
いでしょう。

これからの事業等について
は、宗務所の皆さま、役員の
皆さまと相談しながら、当分
治まりそうにもないコロナ禍
を鑑みながら進めて参りたい
と思っております。

曹洞宗婦人会会員の誓い

おしみない心で

どうぞさしあげます

〈布施〉

やさしい笑顔で

どうぞしっかり

〈愛語〉

幸せを祈って

どうぞおさきに

〈利行〉

手をとりあって

どうぞごいっしょに

〈同事〉

私は、今日も菩薩さまの

願いに生きます

挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長 三田村 道雄



立冬を迎え、朝夕の冷え込みがだんだんと厳しくなってきました。

婦人会会員の皆様には、常日頃、菩提寺を通しての活動、並びに宗務所行政にもお力添えを賜っていることに、深く感謝を申し上げます。

昨年十二月「新型コロナウイルス感染症」が発生し、年が明け世界に広がる中、国内においては、四月七日に『緊急事態宣言』が発令され、三密（密閉・密集・密接）を避

ないなど、深刻な状況が続きました。

今年（十一月）は、特に「児童虐待防止推進月間」に定めるため、人と人との接触を八割削減するとの目標の実現に向けて、ステイホーム、外出の自粛・店の休業・学校の休校、更にはイベント開催における人数制限等、普段の生活が制限されることになりました。

「新型コロナウイルス感染症」拡大に伴い、感染者・濃厚接触者・医療従事者等に対する人権問題（偏見・中傷・差別）が生じてまいりました。

また、休業や外出自粛が要請される中、DVや虐待の増加も大きな心配でした。特に児童虐待に関する問題は、増加傾向にあり、子どもの生命が奪われる重大事件も後を絶た

「命」・「権利」そしてその「未来」は、社会全体で守らなければならないと存じます。

県内においては、クラスター発生により、感染拡大が続いております。不安な日々が続いている時こそ、冷静になり、適切な行動をとると共に、相手に対してリスペクト、思いやりの心が大切だと思います。

本年は、曹洞宗婦人会が創立して四十五周年ということで、記念事業が大本山永平寺を会場として、記念大会が開催される予定でしたが、コロナウイルスの問題で中止ということとなりました。（後日

大幅に縮小して、記念法要のみ開催されたとのことです。）

婦人会活動におきましては、当分の間は、できる限りの感染予防対策に努め、菩提寺の住職様、寺族様とお話しをしながら、今後の活動に努めていただきたいと思います。

宗務所におきましても、今年度の諸行事は、中止または延期となっておりますが、所員一同感染予防につとめ、円滑なる宗務所運営に努めてまいります。

婦人会会員の皆様には、何卒、健康に留意され、今後とも、宗務所婦人会活動にお力添えいただきますようお願い申し上げます。

合掌

祈

疫病退散 早期終息

明日に向かって今を

曹洞宗東北管区教化センター統監 高橋 哲秋



昨年の暮れごろより爆発的に世界中に感染拡大した新型コロナウイルスは、宮城県宗務所婦人会の皆様のご生活や活動に多大な支障をきたしたと存じます。また、宮城県内もコロナ感染者数は管内随一の多さとなっております、感染拡大予防に苦慮されていると存じます。

ここに、お見舞い申し上げます。

あの日から十年

さて、令和三年三月十一日は、東日本大震災より満十年となります。この間自らも被災し、多くの悲しみを体験しつつも、希望に向かって、少しずつ立ち直ってまいりました。いまだに完全復興とは

言えず、さらに一昨年の台風十九号をはじめ、追い打ちをかけるような自然災害が頻発しています。

大震災以前の十年間の婦人会は、会員同士の親睦や会員の確保等の活動が中心でした。その後、震災という未曾有の自然災害に遭遇し、改めて「会員の誓い」を具体的に実践されたのが、この十年であったと思います。このような自然災害に遭遇し、自助・共助・公助を軸に、貴婦人会におきまして、ボランティア精神を発揮し、お互いを励ましあいながら活動されてきたことに敬意を表します。

新型コロナウイルスの脅威

しかるに今般の新型コロナウイルスは、いつ誰に感染するかわかりません、私たちはただ、三密（密集・密閉・密接）を避け、マスク着用とこまめな手洗いをし、予防に心がけるしかありません。

普段の寺院婦人会活動ではみんながお寺に集まって習い事や掃除

などをしながら、おやつを持ち込んだりしてお互いの懇親を深めていました。それが外出どころか、間合い（ソーシャルディスタンス）の確保が必要となりました。耳元でのヒソヒソ話さえできません。周到な用心が肝要です。特に私のような高齢者は感染すると重症化しやすいとのことです。十分な注意が必要です。

談笑しながらの会食はばかれる現在、向かい合っている食事さえ気がつかないです。病院などでは、直接面会ができず、一部ではスマホ面会となつていくようです。私どもも必要な事は文書決議やパソコンによるインターネット会議に変更され、会食懇親の場がなくなりました。

第一次世界大戦の大正七年から八年にかけてスペイン風邪が大流行し、世界の三分の一の人が感染し、日本でも二千三百八十万人の患者と三十八万八千七百二十七人の死者が出ました。当時とはちがいが、生活様式が便利になり医学も進歩した今、一日も早い治療薬と予防薬が望まれます。

離れていても心はひとつ

最も有効な感染予防策は、人に

会わず、外出せず、郵便物など外から来たものは徹底消毒することでしょう。

当教化センターでも、皆様が楽しみにしておられる今年度の「禅をきく会」は全て中止、岩手での「東北管区研修会」は来年度に延期となりました。

しかし、人の文字は大きな一が小さな一を支えて「人」です。人間の文字は人と人との間で「人間」です。いろんな人やものと関わり合ってこそ私たちは人間といえます。

昔から井戸端会議は、つまらなしいと思える噂話や近況を話すことで、心癒やされ、いろんな知恵や人付き合いの方法などを学んできました。婦人会活動の原点を井戸端会議とするのは失礼かもしれませんが、今だからこそ、マスクミなどに左右されない、人間的な関わり合いが求められます。

電話での長話は大いに結構です。無駄話と思える会話の中で、お互いが安否を確認しつつ、楽しく語り、再会を願ひ、「ひろげよう信じよう 美しい心のふれあい」を忘れずに毎日をごしてまいります。

(岩手県遠應寺住職)

「曹洞宗宮城県宗務所婦人会総会」

日時 令和二年九月四日(金)
場所 宮城県宗務所

総会報告

光明寺仏教婦人の会
山本道子

中国武漢市から発生したCOVID-19が瞬く間に全世界に広がり、日本でもあらゆる分野で機能が変わってしまいました。曹洞宗でも梅花講、婦人会等の行事が延期或は中止となっていました。

曹洞宗宮城県宗務所婦人会も「三密を避けるように」とのことでしたので総会など開催することがなかなか難しい状況になってきていました。皆さん巣ごもり状態になっていましたが、愈々九月になり、四日に役員代表の役員会及び総会の形をとらせていただいた次第です。内容として、いつ収束するかわからないので当面の行事は中止とする。会計報告や役員改選については書面報告で了承していただくこと。会報の発行はします。と決定されました。

例年であれば研修会あり、お泊まりであれば楽しい懇親会などで親睦を深めたりという事が出来ないのが本当に残念なことです。

皆さんの寺院婦人会の状況はどうでしょうか。それぞれ工夫されていることと思いますが、早くワクチンが出来て、ウィズコロナで動き回れる様になる事を願い、皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。それまでは充分お気を付けてくださいませ。オレオレ詐欺には気をつけて！三密を避けて！マスク着用！うがい手洗い忘れずに！耳にタコですね。総会報告がそれてしまいました。以上です。



任期を終えて

前会長
金澤洋子

新型コロナウイルス感染の勢いも衰えを見せず各行事が中止、延期となり当宗務所婦人会の新年度総会並びに役員改選等もやっ

信徒集会」では恐れ多くも禅師様の御前にて「発願文」を読み上げるという身に余るお役を頂戴致しました。評議員として、山形の東北管区研修会では花釜さんと二人で「総合司会」を担当させていた

と九月に入り規模縮小で行なわれ、役員引き継ぎが出来ました。会長の任を辞する事が出来ました。

私の人生の貴重な一ページとなりましたこと心より感謝致します。そして何よりも人として数多くを学ばせていただきました。とは、教化センターの皆様初め宗務所の皆様、寺族さま方役員

のあいさつ”を述べるといいう大役がありました。大きな戸惑いと不安でいっぱいでしたが、寺族さま方はじめ役員

の皆さま方のご指導、ご協力のもと乗り越えられたことが一番印象に残ります。また「第四回曹洞宗宮城県檀

また「第四回曹洞宗宮城県檀

（清水寺仏教婦人会）

コロナ禍の婦人会活動

緊急事態宣言発令中

…でも、

頑張ってマスク作り

圓通院婦人会

花 釜 祥 子

私達の大崎市方面では、小・中・高校の学校では三月二日より休みとなり、緊急事態宣言の延長も入れ、五月三十一日まで自宅待機となり、学校が始まって週一日・二日の登校からで、夏休みは十日間ほどの短いもの。私達、皆、三蜜（密閉・密集・密接）：ソーシャルディスタンス（社会的距離）の生活のはじまりでした。マスクは、二月に入り、店頭から姿を消し、買えなくなり、あっても手のとどかない程の高い値段で売られてい

ました。

そんな中、住職の発案でお寺にある「お袈裟を作る会」のご婦人方に、マスク製作依頼をお願いしたところ、快くOKを頂き、さっそく作業の開始です。表の材料は、ほとんど自前です。足りない裏布の晒（さらし）は品切れでしたので婦人会の方より何枚も協力して頂きました。

糸・ゴムも手に入りにくく、若寺族がインターネットでがんばってくれましたがそれでもだめでした。ゴムをつけるまでに、作って頂き、お寺でゴムつけそして消毒して二個ずつ袋に入れ千三百枚完成しました。ゴールデンウィーク終盤の五月九日檀信徒さん、福祉施設「百才館」・ショートステイ「しらとり」のみなさんへお届け

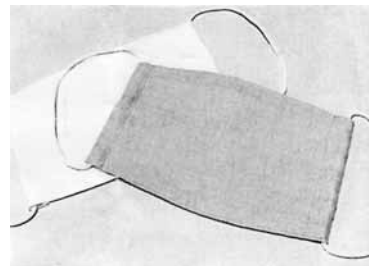
しました。コロナウイルス感染拡大防止の中、マスクが手に入らない状態が続いていたことから大変よろこばれました。アベノマスクより早く届けられてホッとしました。作成していただいた皆様には本当に感謝です。「ありがとうございます」の声が、いっぱい届きうれしかったです。非日常の生活がまだまだ続きそうです。コロナの早い収束を願ってお寺では毎日、疾病平癒祈願をしております。

友達・家族・地域を守るために新しい地域活動の方法を模索していきたいです。未知のウイルスでわからないことが多いため不安がうまれ、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながります。ウィズコロナ：コロナと共にと言われませんが、本当は恐いですね。医療関係者の方々へ感謝致します。

合掌



くれぐれも、どうぞご自愛ください
(手作りマスクを作りました)



マスクは2枚ずつ配付されました。
大判で出来ている為、ゆったりと肌触りもとても良い仕上がりになっているので、これからの季節気持ちよく装着できそうです。

— コロナ禍でも
笑顔で —
耕田寺婦人会活動
耕田寺婦人会
太田 祐子

今年初めての活動は、「曹洞宗婦人会」創立四十五周年の記念事業の一環として会員皆で写経をしたことです。

そして、二月の県役員会で四月の総会内容を検討する際、『新型コロナウイルス感染が懸念されるならば中止!』というあの決定は、今思えば英断だったと思います。その後、緊急事態宣言も発表され殆どのご寺院での寺行事はもちろん婦人会活動も中止となりました。

我が耕田寺婦人会も活動は最小にし、春秋彼岸と盆の墓参における「グリーン活動」と本堂清掃、境内除草程度になりました。今ま



では行事の後に慰労の茶話会等で親睦を深めて楽しい時間で終えるのですが、今年は終了後速やかに解散でした。それでも久しぶりに仲間たちと会えるだけで笑顔のこぼれる作業になりました。三蜜を避け、手洗い、マスク着用の励行と模索の活動でしたが、心に残った事が二つあります。

一つ目は、マスクづくり。政府からの配布の前に一刻も早く、『全檀信徒皆様に二枚ずつ届けよ

う』と発案された寺族様と共に、皆で手分けして作成し郵送したことです。ガーゼもサラシもゴム紐も手に入らない時に、寺族様の着付け師のお仲間たち等からいち早く用意して下さった事には今も感謝です。



二つ目は、孟蘭盆会法要中止の決定に戸惑う私達へ、ご住職様始め徒弟様山内皆様手作りの『御朱印』が役員、梅花講、婦人会のみ

参列の孟蘭盆法要で供養していただき、お盆までに発送され、参列できない全檀信徒皆様と代表参列した私達の各戸に届きました。お寺に参集できない代わりに心の拠り所となる証を手にし涙した事は忘れません。

今年度は、コロナに始まり翻弄される日々。婦人会が創立された時の初心に返り改めて継統の大切さを思うのとコロナ禍の影響で、今まで行われた事が縮小されたり、消えてしまうことが一番心配です。

最後に私事ですが、未熟な私が四年間、県婦人会の役員の一員として、皆様にご指導頂いた事本当に有り難うございました。この貴重な体験は、私の心を豊かにし「明かり」となりました。

今後の行事等の折皆様にお会いする機会を楽しみにしております。

合掌

自粛生活と

婦人会活動

—そこから学んだこと—

清水寺仏教婦人会

齋藤京子

令和二年の干支「庚子（かのえ

ね）」を検索すると「庚」：終わ

り・改める・枯れていく、「子」：

今から生まれる・始める・増える

という意味合いのことが書かれて

あり、全く新しいことを始めるの

ではなく今までやってきたことを

改め、変化させていくそんな一年

になるということでした。私も今

まで歩んできたことを色々振り返

り庚子年に相応しい一年にしよ

うと決意しました。そんな矢先に

新型コロナウイルス感染症が発生

しました。

二月十五日の涅槃会法要以降、

新型コロナウイルス感染症拡大防

止のため三密（密閉・密集・密接）

を避け、人に移さない・移らない

を徹底し婦人会活動・梅花流活動

は自粛に入り全ての行事が中止と

なり会員の皆さまともお会いする

ことも出来ず寂しさを感じていま

した。

不要不急の外出を避けた自粛生

活が余儀なく強いられたそんな折

り、婦人会から「手作りマスク作

り」の作り方説明書が配られまし

た。家庭科の裁縫の授業は母任せ

状態で点数をもらっていた手先の

不器用な私ですが年始めに決意し

たことを思いだし挑戦することに

しました。

まず、夫のを作ろうと思いまし

た。何度も失敗を繰り返し出来た

マスクは納得のいくものではありませんが、夫は「俺がいいって言

うんだから大丈夫だ！」と勇気づ

けてくれ、笑顔で毎日使ってくれ

ていることが大変励みになり自信
へと繋がりました。

永平寺に奉納する雑巾もネット

で検索し、自分で一針一針縫った

雑巾を納めることができたことに

感動しています。今まで自分は出

来ないものと決めつけ努力もせず

に人任せにし諦めていたことが恥

ずかしく感じています。こんな小

さなことで感動を覚えた自粛生活

の一コマでした。

七月に入って日本中で感染者が

毎日増え続け恐怖と不安に怯えて

おりますが「堪えられない試練は

与えられない」と聞いております

ので新型コロナウイルス感染症が

終息する日まで三密を避けた行動

をとりマスク着用・手洗い・うが

い等を励行し試練が希望に変わり

平穏な日常生活に戻る日を待ちた

いと願っております。

「振り返ってみたら…」

三十三号発行にあたり既刊の
会報を開いてみた。二十四号
（平成二十三年十二月発行）が
目に止まり、「東日本大震災」
の特集号でした。

その年も二ヶ月後の総会が
六月に開催。東北管区研修会は、
岩手県当番で中止となりました。

〃総会があって再会出来た喜び〃

「被災地ボランティア」の大学
生五団体を引き受け、宿泊等
のお世話をなされた苦労話…

本部婦人会より会長さん方執
行部の方々が全国からいただ
いた義援金の中から、特に大変な
県にと百万円をお届けしながら、
まだまだ手つかずの被災地を見
舞って下さいました。

その浄財を基に宗務所婦人会
では、手作りの支援袋を縫って
避難所になっていたお寺さん
にお届けしました。等々、当時の
緊迫感のある内容の会報でした。

〃あたりまえの日常〃がいかに
幸せなものかコロナ禍のこの一
年、形は違えど一日一日を大事
にしていきたいと思いました。

「コロナの半年」

圓通院婦人会

伊 東 美智子

三月脳ドックを受けに行った場所が「発熱外来受付」と同じ建物の中にありコロナを身近に感じた頃から、はや半年が過ぎました。その頃の日記から振り返ると…。

○いつもより来客が少なく、ゆっくり？ダラシなくすごしてましたが、出かけられずに寂しい思いをしているだろうと気づかっておいしい物を買ってきてくれた友や手紙、電話をくれた人も。私は高齢者だと自覚。

○春彼岸・お盆・秋彼岸は多忙なはずなのに娘や親せきは、墓まで来ても我が家には入らず玄關にそっと果物などを置いていく。仏さまが寂しいだろうと思ってお盆には盆提灯あるだけ出して六個、灯籠も出して仏壇をにぎやかにしました。

昨年の五月と今年の五月に身近な一世紀近く生きてこられた大先輩を黄泉に送りました。戦争中の貴重な体験をされた方々です。葬儀のやり方が今年は大きく変わりました。送る側としては、もっと

沢山の人々に大先輩の歩んだ足跡を、苦勞を、すごさを、伝えてあげたかったと思いました。昨年の大先輩の葬儀のようにして。私は葬儀は故人の人生の歩みから沢山学ぶものがあると思つねづね思っているのです。

自分の人生の足跡をふりかえりました。家に居る時間を活用し終活をしました。小学校時代からの賞状など(昔は何にでも賞状くれたんだと思いつながら) VTRのテープ、ハミリのテープ(今はCDの時代)本、台所のあまり使わない食器(今は家に集ってお酒を飲まなくなつたので、トックリなどはいらない…)など意欲的に終活。すこしは、役に立てばと思ひ「古

着でワクチン」に送りました。もう絶対に着ない「モーニング」アクセサリーも沢山。(首にこんな重い物をもうさげない!!と…。

梅花の練習がはじまると、やはり皆さんと会う事の大切さを痛感したところです。

義母との別れ

圓通院婦人会 瀬 戸 洋 子

令和二年、明けて四日目の夜

明け前、突然の電話で、私達家族は同じ思いが、頭をよぎりました。電話の先は、義母の入所先からでした。

昨年の半ばから、容態が悪化していたのです。担当医からは、覚悟しておくようにと言われておりました。

その時はまだ新型コロナウイルス騒ぎなど何事もなかったため、従来通りのお葬式をしていただき、地域の方々や身内の人達で、心ゆくまでお別れ出来ま

した。

一月末から世界中が見えない武器により生活様式が一変されてしまいました。

コロナウイルス感染の恐怖から、後半の儀式は簡略の形になってしまい、とても残念です。つくづく義母とのお別れの儀式が悔いのない形であったことに感謝するばかりです。

毎日、新型コロナウイルスとの戦いです。一日も早い終息を願ひ、我が家の仏前で今日もお祈りをしています。

新年研修会に

初めて参加して

清水寺仏教婦人会

島 貫 和 恵

令和二年一月三十一日午前十一時ホテルモントレ仙台で来賓五名各婦人会の皆様七十一名の参加で開催されました。

初めて参加した私には、周りが見えない人達だったので話しもできなく戸惑って不安になっていました。清水寺の皆様とちょっと離れた席になってしまいました。でもどの婦人会の先輩達も落ち着いて、自分のことはもちろん他の人達にも気を配り、次第に沿って進行されている姿を見てさすがだと不安は感心に変わりました。



スコップ三味線 一潤洞院婦人会一

講演は東北教化センター布教師、村上明秀様で水と仏教の教えについて話していただきました。確か台風十九号で丸森の被害から話しは始まりました。被害が大きくて大変な思いをされたそうです。

それからチベットへ行かれたことも話され体調が悪くなってトイレを探し回った話からその国の習慣で事後の処理は水を溜めて紙を使わず左手で洗浄することから、左手は不浄の手だと言ったこと。ちょっと私にはできないと思います。したが水と不浄の手で身を清め、修行されて来たのだと受け止めた。

懇親会に入りそれぞれの婦人会のアトラクションがあり、清水寺では、千葉みつきさんの歌が皆様から拍手喝采を浴びていました。歌に合わせて日本舞踊まで飛び入りに参加した方もおりました。もう大変な盛り上がりで感動しました。他の婦人会の方々も歌や、スコップ三味線、ミツバチダンスなど衣装まで揃えて、頑張っている先輩方の元気の良さにはまたまた感動し感心しました。

時間は、午後二時過ぎ、「あなたとわたし」を斉唱し閉会しました。今回新年研修会に参加できたことは、これからの婦人会活動や日常生活に大きなエネルギーをいただいたと思えました。

今は、新型コロナウイルスで活動は自粛されていますが、皆様と活動できる日を楽しみに、心折れないようエネルギーを蓄え何があ

婦人会例会

涅槃会と針供養

ねはんえ 妙心院婦人会

後 藤 陽 子

令和元年十月三十日の曹洞宗第二教区研修会で「涅槃図」についての講演会に参加した俳句会の友人に、妙心院婦人会でも毎年行うことを話したら、是非拝見させていただけたいとのことでした。

早速住職さまの承諾を受け、婦人会の了解も得て去る二月八日例会開催の折に、二十九名の方が参



ても前を見て、自分のことができることをして周りを照らしていきたいと思いました。

加させていただきました。本堂でお勤めの後、畳一畳よりずっと大きい涅槃図を拝見しながら、住職さまから詳しく解説をしていただき、改めて感銘を受けました。

住職さまの計らいで貴重な機会を与えていただいた企画、関係者に感謝の意を込めて参加者の詠んだ句をまとめてみました。

もともとこの俳句会は後期高齢者のボケ防止のために始めた会ですが、最近ではリタイヤした男性の方も数人おり、非常に賑やかなになっております。俳句の季語の中には三仏忌は勿論、針供養、春彼岸、お盆、彼岸など仏教に関係するものが沢山あります。

涅槃図に猫も加えし絵師の慈悲 伸 子

涅槃図を紐説く僧の慈悲の顔 千代子

針供養おへていただく小豆粥 和 子

涅槃図に千支十二支の集まれり 糸 子

報告 —— ボランティア活動 ——

熊本県球磨川地方の水害被災者の方々が遅れていた仮設住宅へ入居に際し「毛布」「シーツ」「夏掛布団」と指定の上援助要請が評議員へ十月三日に連絡が入り、早速各婦人会にお願いしたところ二週間後には全国より多くの援助物資が集まり、保管上の事もあり各寺院でストックしておいて下さいと再度連絡がありました。

県婦人会の中で、バザー開催に準備してある中から要請のあった物資を「衣装ケース」七個分ずつ現地へ発送したとの連絡、寒さに向う時期大変喜んで頂きました。

それぞれの婦会も届ける準備を進めていたり「相互扶助」の温かい思いやりが仏教婦人会にあふ

れている喜ばしい結果と受け止めております。

その折に「きゃら基金」とは別に義援金として二十万円を「宮城県宗務所婦人会」で「曹洞宗婦人会」本部事務局へ送金致しました。かつて本部婦人会より最優先で義援金をお届けいただき被災者の方々にいろいろな形でお手伝い出来たことを忘れずに皆さんのご協力とご理解をいただきながら、心の通った活動をして行きたいと思えます。

令和二年十一月

新旧評議員一同

写経の御礼と記念品発送について

曹洞宗婦人会 会長 飯田邦子

日頃、曹洞宗婦人会活動にご理解ご協力をいただきまして心よりお礼申し上げます。

どうぞご笑納下さいますようお願い申し上げます。——略——

本年は曹洞宗婦人会創立四十五周年に当り記念事業の一つとしてお写経を発願し皆さまに多大なご尽力をいただき、おかげさまで二、三〇〇〇巻余りを集約致しました。

※ 宮城県に四〇〇巻の割当があり、各婦人会を通じて皆さまにお願い致しましたところ熱意と誠を持ってご協力下さいます。ありがとうございました。

思いもかけない新型コロナウイルス感染症の拡大により記念式典も中止となりましたが、お預りしたお写経は実行委員のみで十月七日に大本山永平寺様に納経致しました。記念品として、大会スローガン「すべての慈しみの心を」と福山諦法禅師さまにご染筆していただいたものです。

お写経にご協力いただいた方々には心よりお礼申し上げます。

前評議員 金澤・花釜



評議員報告

前評議員 金澤洋子
花釜祥子

令和二年

三月二十五日

◆東北管区研修会準備会―中止
(花巻温泉・ホテル千秋園)
(旧評議出席予定)

◆七月 管区研修会―中止
令和三年再度岩手県で東北管区研修会開催のお知らせ
曹洞宗東北管区教化センター
より (三月二十六日付)

◆五月十三・十四日
全国評議会・総会―中止

◆十月七日

創立四十五周年記念大会
全国評議会中央研修会―中止
(福井県大本山永平寺)

評議員は、檀信徒会員より一名、寺族会員より一名、計二名が宗務所単位より選出され、任期は二年、本部婦人会への各届出や、助成金の申請などします。宗務庁での会議や研修会に出席して全国からの代表者の方々と交流も大切な学びの場となっており、各県に持ち帰り「宗務所婦人会」の活動に取り入れております。身近かな東北管内各県の評議員さんとの意見交流は、震災以後特に大事なこととなっております。

宗務所婦人会役員

(令和二年～令和三年度)

会長 森 すみえ

副会長 花釜 祥子

庶務 岡崎るみ子

監事 二階堂千代子

理事 加入寺院寺族

評議員 森 すみえ

顧問 三田村道雄

参与 東海林泰典

“ 佐藤 透光

“ 清水 大伸

曹洞宗宮城県宗務所婦人会

昭和五十年に宗務庁内に「曹洞宗婦人会」が結成され三年後には、各県宗務所単位に「婦人会」結成の動きがありました。

宗務所では早速、各寺院での「会」あるいは「講」などの調査がなされ宮城県では五十九ヶ寺が何等かの組織化がわかりました。この結果をもとに準備会を重ねて十四ヶ寺が加盟登録、本部婦人会より遅れて十二年後の昭和六十二年四月二十七日「曹洞宗宮城県宗務所婦人会」が正式にスタートしました。

檀信徒の婦人層がお寺に集まり易く信仰心に目覚め、仲間づくりしながら社会奉仕と自らの研鑽を目的に東北管内持ちまわりの研修会は、毎回四百名を越す盛り上りですし、県内に於いても研修会で学び、懇親会でつながりを深め、会報発行等内容の濃い活動を続けております。

編集後記

春の足音が聞こえ始めた頃、突然に楽しい学校に通えなくなり、外で遊ぶことさえ禁じられどんなにかつらかったか…。七月末頃からゆるやかに公園から子供達が体中のエネルギーを全て出し切るが如く大きい声を張り上げながら走りまわって遊んでいる姿に「あたりまえ」の日常がどんなに幸せなことかしみじみ感じられました。

連日「新型コロナウイルス」という未知の恐怖に世の中が騒然となり、年度末、年度始めの全てのことか「自粛」という思ってもみなかった外出もままならない事態に陥り不安の中で仏教婦人会の方々が思いついたお手のものの手仕事でした。

「手作りマスク」を粛々と縫ってお檀家さんや施設の方にお届けしたり年間行事全て中止の代りに、針を持って婦人会活動をしていた様子：慈愛そのものです。
「コロナ禍」「三密」「自粛」：聞き慣れない言葉が飛び交っている中、「感謝」の言葉を忘れないように心して過ごしましょう。

編集担当一同

発行

曹洞宗宮城県宗務所婦人会
〒九八一―三一―一七
仙台市泉区市名坂字
檀町一六九―四
電話〇二二―二一八―三八〇一
曹洞宗宮城県宗務所内